

第3学年 国語科学習指導案

平成29年11月2日(木) 2校時
児童 3学年 8名
授業者 田村 いづみ

【学習指導要領での位置づけ】

- ・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

【B(1)イ】

- ・書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

【B(1)ウ】

- ・文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

【B(1)オ】

- ・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

【伝国(1)イ(オ)】

1. 単元名 人物を考えて書こう (東京書籍三下)

2. 単元について

○ 単元観

本単元では、絵にかかっている人物がどのような人物かを想像し、4枚の絵から場面と場面とのつながりを考えて、物語を書く力をつけることをねらいとして設定している。「人物メモ」を作成して、人物像や人物どうしの関係、場の設定を整理して物語を書くことで、書こうとすることの中心が明確になり、段落相互の関係等に注意して文章を構成する力をつけることができる。また、整った文章にしていくために、文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりして推敲の力を身につけることもできる。同じ絵をもとにしても書き手の個性がでてくるので、人物メモを書く段階から、自分の考えがなぜそのような考えに至ったのかというきっかけ等についても交流させることができ、物語を完成させた後には、個性の違いを楽しみながら互いの作品を読むとともに、よさを見つけて感想を伝え合う力をつけることも目指している。

○ 児童観

本学級の児童は、「自分をしょうかいしよう」「話したいな、うれしかったこと」等、書く領域の学習を通して、書き始めにやや抵抗はあるものの書くことを嫌がらず、指定された量は書けるようになった。内容に関しては、主語・述語の関係が曖昧であったり、様子を詳しく書けなかったりと分かりにくい文章を書く児童が多く、日々の日記においても出来事の羅列になりがちである。

そこで、日々の指導では、読む領域においても書くうえで大切にしておきたい段落相互の関係、表記の仕方や文末表現の使い方などに気をつけて学習を進めるようにしている。教材文を読み進めるときには段落相互の関係を図や簡単な言葉で明確していき、作文指導では、「はじめ」「中」「終わり」と文章を構成させてから書くようにしていった。少しずつではあるが、書こうとする

この中心を明確にして、文章のまとまりを意識して書くようになってきた。推敲に関しては「調べて書こう、わたしのレポート」において取り組み、分かりやすい文章の書き方や推敲する際の観点を学習した。分かったことと感想は分けて書くことができるようになったが、文章を読む力が弱い児童にとっては誤字脱字を見つけることだけが推敲することとなってしまった。それ以降は、文章を書いた際には必ず推敲するようにして、「読む人が分かる文章になっているか」相手意識を持たせるようにしている。

○ 指導観

本単元の指導においては、第一次では、ゴールとなる活動（物語の発表会を開こう）を明確にし、教材である4枚の絵をもとにした教師自作の物語を紹介して、同じ絵でも人物の性格や会話、行動が変わることで物語が変化することを知り、児童の興味や関心を高めていく。また、学習課題と学習の流れを単元計画で提示して見通しを持たせ、計画を立てて活動ができるようにする。

第二次では、どんな人物がでてくるのか、人物が何をしている場面なのかを4枚の絵から根拠をもとに想像して「人物メモ」を書く。このメモが物語の基盤となるので、自分の考えがなぜそのような考えに至ったのか、根拠をもとに友だちと意見を交流して全体でも確認する。そして、自分が考えた人物像を物語の中で表現できるように、「人物メモ」をもとに、人物の行動や会話、場面と場面とのつながりを考えて物語を書かせる。その際、1枚の絵が1場面であることをおさえ、文章のまとまりや構成を意識させる。敬体と常体の違いなど文末表現の使い方も注意する。出来上がったら、文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりして推敲させ整った文章を目指させる。

第三次では、書いた物語を読み合い、表現のよさや工夫を伝え合い、人物の様子分かるように書けたか振り返えさせる。

本時は、出来上がった1作品をみんなで読み合って推敲する。まず、一人学びで「人物メモ」と見比べながら物語を読み、「人物メモ」に書いてあることが物語ではどのように表現されているのか線を引かせる。また、付箋を活用して、よりよい表現になるように文章を書かせる。また、文章の間違いは、二重線等で訂正させる。つぎにペア学習で自分の考えと友だちの考えを交流する。最後に全体で、「人物メモ」と物語を見比べながら話し合い整った文章にしていき、推敲する上で大切にしていきたいことを確認する。

○ 研究テーマとの関連

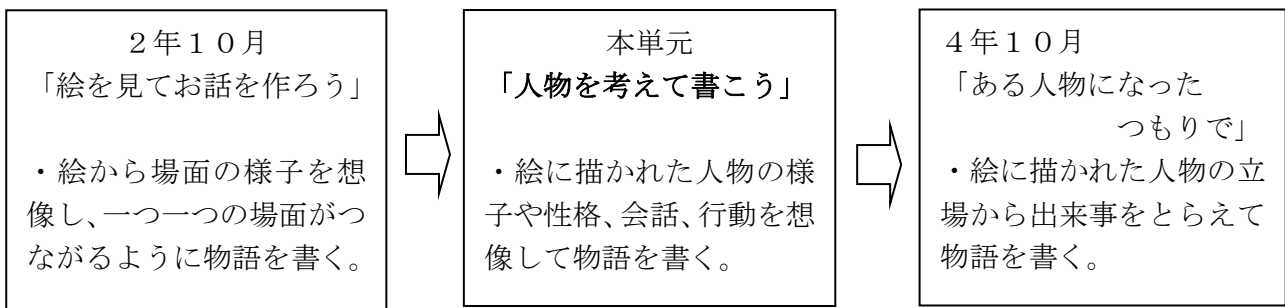
「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」を目指した授業に取り組み、全教科において学習リーダーを活用している。「メニューカード」をもとにリーダーが学習を進め、前時の振り返りから本時のまとめまで一通り学習を進める。各教科において大きな流れを統一していることと板書でめあてからまとめまでを見通すことができるようにしていることで、それぞれが課題意識を持って取り組むことができている。教師の出番は、学習課題を明確にして見通しを持たせるときと、とも学びにおける練り合いで弱さがみられたとき等、できるだけ最小限にとどめる。

学習リーダーは全員ができ学習を進行させることはできる。とも学びにおける話し合い活動では、挙手した児童を指名することが中心となることが多く、意見に根拠を求めたり、意見をつなげたりまとめたりすることには、まだ弱さがある。

とも学びは、一人学びで分かったことや考えたことを進んで発表しようとする。自分の意見を発表することは好むが、友だちの意見に耳を傾けることに弱さがあり「同じです。」「分かりました。」で終わらせようとする。そこで、何が同じなのか、何が分かったのかを自分の言葉で言えるようにしている。話し合いの視点を明確にすることや自分の考えと比べながら聞くこと、疑問を持ちながら聞くことを徹底しているところである。

本単元では、学習リーダーは、前時の振り返りから本時のまとめまで学習を進める。とも学びでは全員が発言できるように指名し、根拠のある発言を促す。意見がばらばらにならないようにつながりのある意見を求め、めあてに対応したまとめができるようにする。一人学びは、4枚の絵をもとに「人物メモ」書き、絵に描かれた人物の様子や性格、会話、行動を想像して物語を書く。とも学びでは「人物メモ」の段階からペア対話をして気づきや感想を付箋に書いて伝え合い、全体で意見を出し合うなかで、「人物メモ」と対応させて絵に描かれた人物の様子や性格、会話、行動を想像した物語が書けるように気づきや大切なことをまとめていく。深い学びになるように、自分の考えと比べながら聞くこと、疑問を持ちながら聞くことを意識させ、つながる意見を促して、活発な話し合い活動にしていく。これらの活動を通して、絵にかかっている人物を想像して、場面と場面とのつながりのある物語が書けるようにする。

3. 単元の関連



4. 単元の目標

○人物の行動や会話、人物像などを想像して物語を書き、友だちと読み合っ感想を伝え合うことができる。

5. 単元の評価規準

〈国語への関心・意欲・態度〉

・絵から想像を広げて物語を書くことに興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。

〈書く能力〉

・登場人物や場面設定、事件とその結末など、物語の基本的な構成や、話の筋を考えている。
・主人公の性格を設定し、その性格を表す行動や会話を物語に書いている。
・表記や文末表現の使い方などに注意して間違いを正したり、自分の考えを明確に記述しているかなどについて確かめたりしている。

〈言語についての知識・理解・技能〉

・表現するために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で分類があることを理解し、書いている。

6. 単元の指導計画 (全10時間 本時8/10)

次	時	学 習 活 動	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
一	1	○教師自作の物語を聞いてゴールをイメージする。 ○4枚の絵から、どんな出来事が起きているのかを想像し、人物の様子が伝わるように物語を書くという学習課題を持つ。	◎			・絵から想像を広げて物語を書くことに興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	行動観察 発言 ノート
二	2	○4枚の絵から、人物の行動や会話を想像し、どんな出来事が起きているかを考える。		◎		・4枚の絵から想像を広げ、人物が何をしているところかを考えている。	発言 ノート メモ
	3	○名前や性格など詳しく想像し、「人物メモ」を書く。		◎		・絵の中の人物について想像を広げて書いている。	発言 ノート メモ
	4	○メモ例と文例を比較して、どんなことに工夫して物語を書くかを確認する。		◎		・人物の行動や会話、口調がどのように表現されているかを確認している。	発言 ノート メモ
	5 6	○それぞれの場面について詳しく想像して書く。		◎		・登場人物や場面設定、事件とその結末等、物語の基本的な構成や、話の筋を考えている。 ・主人公の性格を設定し、その性格を表す行動や会話を物語に書いている。	発言 ノート シート
	7	○「人物メモ」をもとに、人物の様子が伝わるように言葉や表現を工夫して物語を書く。			◎	・物語を書くために必要な語句を増し、用いている。	発言 ノート シート

三	8 本 時	○出来上がった物語を読み、 もっとよい物語になるよう に推敲する。	◎		・表記や文末表現の使い方 等に注意して間違いを 正したり、自分の考えを 明確に記述しているか 等について確かめたり している。	発言 物語 ノート
	9	○友達と物語を読み合い、友 だちからの助言を基に、物 語を書き直す。	◎		・友だちからの助言をもと に、物語を書き直して、 丁寧に清書しようとし ている。	発言 物語 ノート
	10	○物語の発表会を開く。 ○書いた物語を読んで感想を 交流する。	◎		・書いた物語を友達と読み 合い、よく書けていると ころやおもしろかった ところを伝え合おうと している。	行動観察 発言 物語 ノート

7. 本時の学習

(1) 目標

- ・人物の様子や場面と場面のつながりが分かるように書けているか確かめることができる。

(2) 評価規準

- ・表記や文末表現の使い方等に注意して間違いを正したり、自分の考えを明確に記述しているか等について確かめたりしている。

(発言、物語、ノート)

(3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導 入	1. 前時の学習を振り返り、学習の流れを確認する。 2. 本時の課題をつかむ。	○前時までの「物語を書くときに気をつけること」を確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もっとよい物語にするには、どんなことに気をつけたらいいだろう。 </div>	○自分では気づかない間違いや分かりにくい点があるかもしれないことを確認し、もっとよい物語にするために推敲するという課題意識を持たせる。	
展 開	3. 課題を解決する。 (1) 一人で物語を推敲する。 ①人物メモとつながっているか。 ②出来事がつながっているか。 ③正しい文章になっているか。	○人物メモに対応している文章に線を引かせる。(たぬきは青、きつねは赤。) ○色の異なる付箋を用いて、 ・よく書けているところ(青) ・直したほうがよいところ(赤)を分けて付箋に書かせる。 ○場面での出来事をおさえ、つながりを確認させる。	発言 付箋 書 表記や文末表現の使い方等に注意して間違いを正したり自分の考えを明確に記述しているか等について確かめたりしている。(発言、物語、ノート)
	(2) ペア対話をする。 ・観点にそって対話をして、よく書けていると思ったところや、直したほうがよいと思ったところを伝え合う。 (3) 全体で話し合う。	○全体での話し合い活動が活発になるために、ペアで自分の考えを伝え合い共有する。 ○人物メモや出来事をつながりを確認し、よく書けているところ直したほうがよいところを発表させ、よりよい物語に推敲していく。	
ま と め	4. まとめる。	○気づいたことや分かったことを発表させる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もっとよい物語にするには、「人物メモ」をもとにして出来事をつながりに気をつける。 </div>		
	5. 今日の学習を振り返る。 6. 次時の予告をする。	○次時で、本時の学習をもとに自分が書いた物語を推敲し、書き直して丁寧に清書することを伝える。	

- (4) 準備物
4枚の絵 人物メモ 物語 推敲する観点カード 付箋（赤、青）

(5) 板書計画

ま	と	ひ	め	タ
<p>もっとよい物語にするには、「人物メモ」をもとにして出来事の一つながりに気をつける。</p>	<p>（気づいたこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物メモとつなげる。 ・出来事をつなげる。 	 <p style="text-align: center;">児童が書いた物語</p>	<p>人物メモ</p>	<p>人物を考えて書こう</p>
		<p>読むときに気をつけること</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人物メモとつながっているか ② 出来事がつながっているか ③ 正しく書けているか 	<p>もっとよい物語にするには、どんなことに気をつけたらいいだろう。</p>	